

## 愛知県におけるゴキブリ類の分布について

旭 和也<sup>(1)</sup> 戸田 尚希<sup>(2)</sup> 山岸 健三<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> ライオンケミカル株式会社 開発部 〒649-0311 和歌山県有田市辻堂1-1

<sup>(2)</sup> 名城大学農学部昆虫学研究室 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501

## Distribution of Cockroaches in Aichi Prefecture

Kazuya ASAHI<sup>(1)</sup> Naoki TODA<sup>(2)</sup> Kenzo YAMAGISHI<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> Development department Lionchemical Co., Ltd. 1-1 Tsujido, Arida, Wakayama 649-0311, Japan

<sup>(2)</sup> Entomological Laboratory, Faculty of Agriculture, Meijo University, 1-501 Shiogamaguchi, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-8502, Japan

Correspondence:

Kazuya ASAHI E-mail: kz-asahi@lionchemical.jp

### 要旨

名古屋市東山公園に設置したマレーズトラップによって、クロモンチビゴキブリ *Anaplecta japonica* とキスジゴキブリ *Symploce striata* が捕獲された。また、愛知県岡崎市の矢作川堤防では黄色水盤トラップによってツチゴキブリ *Margattea kumamonotonis kumamonotonis* が捕獲された。いずれも愛知県での記録は少なく、希少種であるため採集時の様子を含めて報告する。

*Anaplecta japonica* and *Symploce striata* were collected by the Malaise traps set on the Higashiyama Park in Nagoya City. *Margattea kumamonotonis* was collected by the yellow pan traps on a bank of the Yahagi River, Okazaki, Aichi Prefecture. About these species, there are few collections record, and they have the potential to be threatened with extinction in Aichi Prefecture.

キーワード：クロモンチビゴキブリ，キスジゴキブリ，ツチゴキブリ，マレーズトラップ，愛知県

### 緒言

名城大学農学部昆虫学研究室では長年、昆虫類の生物多様性の解明に取り組んでおり、2020年に岡崎市大門町の矢作川堤防にて黄色水盤トラップを設置、また2021年には、なごや生物多様性センターの協力のもと、名古屋市千種区の東山公園にてマレーズトラップを設置し昆虫類の捕獲調査を行った。その結果、両調査地点で興味深く記録の少ないゴキブリが捕獲されたので報告する。

矢作川堤防に置いた黄色水盤トラップでは、チャバネゴキブリ科のツチゴキブリ (*Margattea kumamonotonis kumamonotonis*) とモリチャバネゴキブリ (*Blattella*

*nipponica*) の2種が、また東山公園内に設置したマレーズトラップでは、同じくチャバネゴキブリ科のクロモンチビゴキブリ (*Anaplecta japonica*)、キスジゴキブリ (*Symploce striata striata*)、モリチャバネゴキブリ (*B. nipponica*) の3種が捕獲された。さらに追加調査として、戸田が同地にベイトトラップを設置したところ、多くのキスジゴキブリを捕獲することができた (戸田, 2021)。また夜間、同所のアベマキの枯死木には、多くのゴキブリ科のヤマトゴキブリが止まっており、これらも回収した。この内、モリチャバネゴキブリとヤマトゴキブリを除く3種は愛知県における記録がほとんどない



図1. マレーズトラップ設置状況：名古屋市千種区東山公園。



図2. 黄色水盤トラップ設置状況：愛知県岡崎市大門町矢作川堤防。

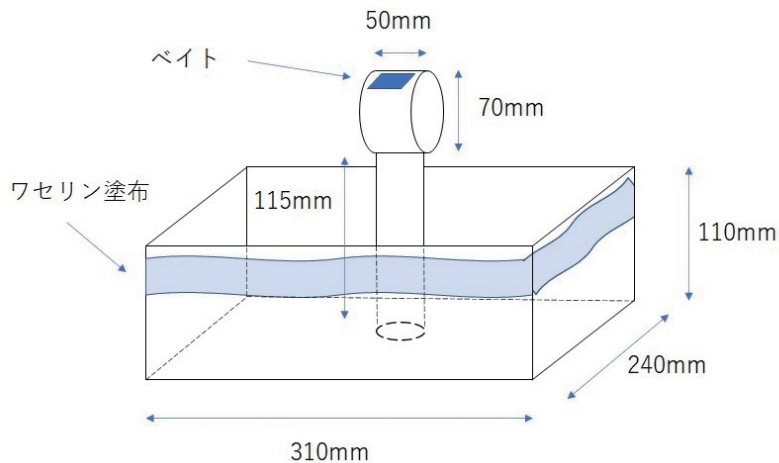


図3. ベイトトラップ：水を張った白色水盤の外側にワセリンを塗布し，水盤の中央に市販のゴキブリ用ベイトを置いてある．飛翔性の昆虫だけを捕獲する．

ため，絶滅危惧種に指定される可能性を持っている。

一方，過去にクロモンチビゴキブリがマレーズトラップによって採集された記録はなく，ツチゴキブリが黄色水盤トラップによって捕獲された記録もないことから，これら2種がトラップによって捕獲されたことは新たな知見である。また，これらのトラップとキスジゴキブリの捕獲のために追加調査でを使用したベイトトラップは，ゴキブリ類の調査において有効であると考えられる。

#### 材料および方法

マレーズトラップ (MT) (図1) による調査は，2021年4月2日から同年10月22日まで名古屋市千種区の東山公園の一万歩コースの森林内に2基設置して実施された。このトラップは垂直の黒いネットに屋根が付いた

簡単な構造である。垂直に張られたネットに行く手を遮られた飛翔性昆虫がネットの上に登っていくとトラップ上部につけられたアルコール瓶に落ちる構造になっている。毎週1回，トラップのアルコール瓶の中に入った昆虫は山岸によって回収され，当時名城大学農学部4回生の神谷京香によって標本作成された。

黄色水盤トラップ (YPT) (図2) による調査は，2020年4月9日から同年9月15日まで岡崎市大門町の矢作川堤防で6回行われた。本トラップは米国Solo社の黄色のパーティ皿で，中に洗剤水を張って地面に置くだけで様々な昆虫を溺死させることができる。腐敗防止のため，中に落ちた昆虫を設置1日後に回収する。トラップの設置・回収ならびに標本作成は当時名城大学農学部4回生の蒲野翔太によって行われた。



図4. クロモンチビゴキブリ♂ (*Anaplecta japonica*) : Nagoya, Higashiyama Park, 9-15. X. 2021, K. Yamagishi (MT).



図5. キスジゴキブリ♂ (*Symptloce striata*) : Nagoya, Higashiyama Park, 18. VI. 2021, K. Yamagishi.

ベイトトラップ (図3) による調査は、2020年7月5日から同月9日までの5日間、東山公園の一万歩コースの森林内の3ヶ所に設置し行われた (戸田, 2021)。ベイトトラップには様々な種類があるが、今回用いたものは、水を張った白色水盤の外側にワセリンを塗布し、歩行性の昆虫の侵入を防いだ上で、水盤の中央に市販のゴキブリ用ベイトを置き、飛翔性のゴキブリだけを狙った。また戸田が夜間に同所へ行き、目視による周辺の調査も行った。なお、採集されたゴキブリの標本は名城大学農学部昆虫学研究室に保管されている。

#### 結果および考察

クロモンチビゴキブリ *Anaplecta japonica* Asahina, 1977 (図4)

クロモンチビゴキブリは体長約7mmの小型のゴキブリで、全体的に黄褐色であるが、前翅基部が黒色のため「黒紋」の和名を持つ。日本の固有種で、本州、四国、九州で、本州からは山口県・大阪府・静岡県 (辻, 2019)、および愛知県からの採集報告 (山中, 2018) がある。本種は小型で非常に俊敏に動き、目視での捕獲採集が難しく、生態も不明な点が多い。本邦のゴキブリ類としては珍しく秋 (特に10月) に成虫の記録が集中し、

年一化性と考えられる。今回、東山公園に設置したマレーズトラップ (MT) により、9月から10月にかけて17個体が捕獲された。

採集記録 : 1♂, Nagoya, Higashiyama Park, 4-10. IX. 2021, K. Yamagishi (MT); 1♀, 18-24. IX. 2021, ditto; 3♂, 1♀, 25. IX. - 1. X. 2021, ditto; 6♂, 2♀, 2-8. X. 2021, ditto; 2♂, 1♀, 9-15. X. 2021, ditto.

キスジゴキブリ *Symptloce striata striata* (Shiraki, 1906) (図5)

キスジゴキブリは体長15~17mmで中型のゴキブリである。モリチャバネゴキブリより一回り大きく、体色は黒褐色である。前胸背板は黒色で、両側に黄色い帯を持つことでモリチャバネゴキブリとの区別は容易である。東山公園ではモリチャバネゴキブリに交じって道路上や落葉の上を走り回っている成虫が多く見られたため、ベイトトラップを7月5日から9日までの5日間設置したところ15♂, 2♀が得られた (戸田, 2021)。また、マレーズトラップでも2個体が得られた。本種の分布は本州・四国・九州で (辻, 2019)、本州では神奈川県以南で採集される。西日本では関西までは記録が多いが、愛知県では記録が少ない。辻 (2019) は「5・6月頃か



図6. ツチゴキブリ♂ (*Margattea kumamonotonis*): Aichi prefecture, Okazaki, Daimon, Bank of Yahagi River, 5-6. VI. 2020, S. Gamano (YPT).



図7. モリチャバネゴキブリ♀ (*Blattella nipponica*): Nagoya, Higashiyama Park, 18. VI. 2021, K. Yamagishi.

ら成虫が出現し、樹上性のゴキブリである」としているが、豊田市 (2005) では「枯れた植物の堆積した場所や湿気のある粗朶の中からまれに見つかる」とされており、東山公園でも上述のように、地上を走り回っている多くの成虫が観察された。

採集記録: 1♂, Nagoya, Higashiyama Park, 18. VI. 2021, K. Yamagishi; 2♂, Nagoya, Higashiyama Park, 26. VI. - 2. VII. 2021, K. Yamagishi (MT).

ツチゴキブリ *Margattea kumamonotonis kumamonotonis* (Shiraki 1931) (図6)

ツチゴキブリは体長7~11 mmの小型のゴキブリで、本州 (千葉県以南)、四国、九州に分布する。同属の他種とは後翅が発達することや腹部背面の模様で区別できる (辻, 2019)。本種は蒲野翔太が愛知県岡崎市大門の矢作川堤防の草原に設置した黄色水盤トラップ (YPT) によって、モリチャバネゴキブリに交じって16個体が捕獲された。本種はモリチャバネよりも体が幅広く、前胸背板は他の部分と同じ黄褐色で波状の細かな模様があり、両側は半透明である。また腹部は辺縁部が黒化し中央は黄褐色であることから、近似の他種とは区別できる。若齢幼虫は枯れた樹木の浮いた樹皮下から見つかる

ことがあり、老熟した幼虫は、林床の枯草が積み重なったところで見つかることがある。戸田・大熊 (2020) の記録では、本種が森の中で採集されているが、今回の捕獲が矢作川堤防という草原環境だったことから、少なくとも成虫の行動範囲はモリチャバネ同様、かなり広いことが推定される。

採集記録: 9♂, 7♀, Aichi prefecture, Okazaki, Daimon, Bank of Yahagi River, 5-6. VI. 2020, S. Gamano (YPT).

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica* Asahina, 1963 (図7)

モリチャバネゴキブリは体長11.5~12.5 mmほどの小型のゴキブリで、分布は、本州 (太平洋側は福島県、日本海側は石川県が北限) から奄美大島まで分布する野外性の小型のゴキブリである (町田, 2016)。林内に堆積した落ち葉の多い林床に生息し、都市公園などでもよくみられる。また、屋内へ侵入する近縁のチャバネゴキブリ (*B. germanica*) と違い、飛翔することができる。普通種であるためか、愛知県での記録は少ないので一緒に報告しておく。

採集記録: 1♂, Nagoya, Higashiyama Park, 15-21. V.



図8. ヤマトゴキブリ (*Periplaneta japonica*) 左: ♂, 右: ♀:  
Nagoya, Higashiyama Park, 15. V. 2022, N. Toda.

2021, K. Yamagishi (MT) ; 2♂, 12-18. VI. 2021, ditto; 4♂, 26. VI. - 2. VII. 2021, ditto; 5♂, 1♀, 10-16. VII. 2021, ditto; 5♂, 4♀, 24-30. VII. 2021, ditto; 1♂, 3♀, 7-13. VIII. 2021, ditto; 9♀, 21-27. VIII. 2021, ditto; 1♀, 4-10. IX. 2021, ditto; 2♂, 2♀, Nagoya, Higashiyama Park, 18. VI. 2021, K. Yamagishi.

ヤマトゴキブリ *Periplaneta japonica* Karny, 1908 (図8)

ヤマトゴキブリは体長20~25 mmほどのゴキブリで、北海道から九州まで分布する日本の在来種である。クロゴキブリ (*Periplaneta fuliginosa*) に似るが一回り小さく細長い。表面は平滑でない。メスはオスより小さく短翅である (日本直翅類学会, 2016)。前種同様、普通種であるためからか記録は少ないので報告しておく。

採集記録: 4♂, 2♀, Nagoya, Higashiyama Park, 21. VII. 2021, N. Toda; 2♂, 2♀, 15. V. 2022 ditto.

今回の調査において、クロモンチビゴキブリおよびキスジゴキブリが名古屋市に生息していることが確認された。特にクロモンチビゴキブリが10個体以上捕獲されたことは、本報告以前には記録はなく、特筆すべきことで

あると考えられる。本種は本州においては山口県、大阪府、愛知県、静岡県で記録があるが、いずれも散発的である。本調査での結果から、クロモンチビゴキブリは当調査地での個体密度は高く、マレーズトラップによって効率的に採集が可能であることが示唆された。ツチゴキブリについても堤防という草原環境で比較的個体数が多く採集されたことより、黄色水盤トラップによって採集できることが示唆された。

#### 謝辞

東山公園における調査は、なごや生物多様性センターに採集許可とマレーズトラップの設置許可を取得いただいた。また、蒲野翔太ならびに神谷京香の両氏には、採集および標本作成でご尽力いただいた。記して厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 日本直翅類学会. 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス. 東京. 384pp.
- 戸田尚希. 2021. 名古屋市でキスジゴキブリを採集. 佳香蝶, 73(287): 107.
- 戸田尚希・大熊千晶. 2020. ツチゴキブリを愛知県で採集.

- 佳香蝶, 72(284): 106.
- 豊田市. 2005. ゴキブリ目, VII昆虫類. 豊田市自然環境基礎調査報告書, 196p. 豊田市自然環境基礎調査会. 豊田.
- 辻 雄介. 2019. 山口県のゴキブリ目Blattodea (1). 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告, 11: 137-146.
- 山中 洋. 2018. 本州に於ける四府県目のクロモンチビゴキブリの採集記録. 佳香蝶, 70(274): 27-28.